

令和7年度【事業実施計画】

【目的】

観光事業は、宿泊・交通・観光施設等に代表される観光業に加え、農林水産業や運輸業、製造業、その他の関連する産業などのすそ野が広い産業であり、観光の振興による交流人口の拡大が観光による消費拡大などの直接的な効果にとどまらず、地域の於ける雇用の創出・拡大につながるなど、地域経済の発展に大きな波及効果をもたらすことが期待される。

こうした観光振興の意義を踏まえ、「観光客の誘致促進」「観光客の受入体制の整備」に関する事業の推進により、本市観光の振興を図り、地域経済の発展並びに市民生活の向上や、豊かで活力ある地域社会づくりに資する事を目的とする。

【計画】

国にあつては観光立国推進基本法の規定に基づき、観光立国の実現に関する基本的な計画として新たな「観光立国推進基本計画」が閣議決定され、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の3つをキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の3つの戦略に取り組むこととなりました。

本市は、豊かな自然の中で温泉や農産物等を観光が、人々の心や人生を豊かにするとともに、地域経済の活性化やまちづくりの進展に貢献してきました。

しかし今、人口減少・少子高齢化の進展や生活様式の変化による観光の担い手不足、地域コミュニティの衰退などは、指宿の観光を支えてきた事業者等に極めて深刻な影響を与えるとともに、人々の暮らしや働き方、そして旅の仕方を急速に変化させました。

旅行についても、地域によっては「全国旅行支援」や自治体独自の旅行支援策を講じている影響もあり、インバウンドの回復と相まって全国的に賑わいが戻ってきています。その一方で、一部の観光地・観光エリアでは新型コロナによる環境変化に伴い、サービス業従事者の人手不足、宿泊料金高騰、オーバーツーリズムなどの問題が懸念されています。市内の観光関連業者は、長期に渡り甚大な経済的打撃を受け、厳しい経営状況が続いています。

このような状況下であります当協会では「いぶすきフラフェスティバル」や「いぶすき菜の花マラソン大会」、「いぶすき菜の花マーチ」も開催内容の新たな企画を導入し通常どおり開催してきたところであります。

事業推進に当たっては、社会経済情勢の変化や国及び県・市の観光関連施策などにも対応しながら、取組の重点化、効率化を図りつつ、機動的な執行に努め、事態収束の際には迅速かつ強力に観光需要の喚起に取り組んでまいります。

以上のような状況において、令和7年度は以下の事業を中心に観光需要対策を図りながら、市・関係団体と連携し各事業を進めてまいりたいと考えております。

I 【公益目的事業会計】（公益目的事業比率 58, 47%）

1 観光客の誘致促進事業

（１）【観光情報誌等作成事業】

昨年度の引き続き観光客や滞在客に対する観光の道しるべとして観光情報誌及び観光マップを発刊し、問い合わせ等のあった観光客への送付や観光案内所での配布に行い、指宿市の観光情報発信を行う。また、世界情勢等を踏まえて、ホームページでの観光情報・指宿の魅力を国内外に発信して行く。同時に SNS 等の活用も含めてリアル（旬）な情報発信に努め、国内外の観光客誘致促進を図っていく。

（２）【指宿観光宣伝誘致促進】

日本人の国内旅行にあっては、雇用や給与は次第に良化し、暮らし向きもゆるやかな改善が期待され、旅行の追い風になっています。今後の国の経済政策に期待がかかるものの、物価は引き続き上昇し、一人あたり旅行費用は高値傾向が継続する見込みです。

また、観光誘致活動は、国内の観光地の地域間競争が予測されることから観光誘致促進事業が急務であります。本市へ引き込むため観光地の詳細な情報発信のパンフレット作りや SNS 等を使った PR をしてまいります。現在の観光不況の状況下のなかにあっては、これまで同様な企画とは違った、創意工夫を凝らした内容を計画し、教育旅行の受け入れ体制の強化やスポーツコミッションと連携するなど、早い段階で市担当者と、手法・手段のための協議をおこないたいと思います。

また、海外誘致活動にあっては、海外向けの PR サイトの製作を進め、本協会との姉妹温泉都市の台湾北投温泉協会との交流も図ると共に県観光連盟、市観光経済戦略会議などと今後の動向を見極めながら誘致対策に取り組んでまいりたいと思います。

（３）【エージェントとの連携による長期滞在型ツアーの推進】

旅行会社では、SDGs 等の貢献を目指した各種取り組みを進めています。CO2 の削減を目指したツアーやイベントの実施、地域の伝統文化や伝統芸術の保護・育成・交流、自然資源の観光への活用などが挙げられます。

エージェントと連携した避寒ツアー企画として「あったか鹿児島・指宿温泉」長期滞在の旅を実施し非常に高い評価を得ましたので今年度も造成していただくようエージェントに働き掛けていきたいと思っています。併せて、コロナ感染対策を行い安全安心な観光地や景観を活かしたワーケーションを活用した観光の推進、マイクロツーリズムの提案を進めてまいります。

2 受入態勢の整備

（１）【広域観光の連携】

九州知事会が推進しているサイクルツーリズムは海外からの要望もあり、県内の観光地を巡るコース設定が行われ SDGs を取り入れた新たな観光戦略となってきたことから本市の観光地との連携を図ってまいります。特に長崎鼻、池田湖、開聞岳、鰻池等は重要な観光素材であり、魅力ある資源としてアクティブティに飛んだ観光地の情報発信を行ってまいります。

また、南薩をはじめ、佐多岬も整備され南大隅との広域関係を一層深める必要があります。山川・

根占フェリーは薩摩と大隅の掛け橋として観光客の足となり、相互交流が期待されており、一層の連携を図ってまいります。さらには、環錦江湾地域の海をテーマとした観光や種子島・屋久島への着地型観光の拠点づくりと積極的な観光受入の体制強化を図ってまいります。

（２）【インバウンド受入対策】

海外からの観光客は、都市部を中心に増加の傾向にあり、地方を含め持続可能な観光の一環としてオーバーツーリズム対策が必要となっています。県内にあっては、香港、韓国、香港からの定期便や東南アジアからのチャーター便の復活もあり徐々に海外客も増えてきております。

- ① オンラインを使った海外との商談会への観光情報の提供。
- ② 技能実習生などインバウンド人材活用事業の受入と協力。
- ③ 市が指宿駅構内観光案内所に観光コンシェルジュ（中国語・英語対応）を設置することによる案内所サービスの向上。
- ④ その他、インバウンド対策に係る関連団体との連携。

以上について強化・推進を図っていきます。

（３）【イベントの取り組み】

国内でも知名度のあるマラソン・マーチ・フラフェステバルのイベントは、本市にとって欠かせない大会となっております。

それぞれのイベントにおいて、万が一の時の対応手段等、重ねた経験を活かし、それぞれの課題を研鑽し新たな企画や運営で開催し、地域と協力しながら元気を届けられるよう、取り組んで参ります。また、近年の少子高齢化や観光業界が受けたダメージ等を考慮し、大会の意義や目的、経済効果等、イベントが本市の地域振興にとって必要とされる理由を再考し、現状に即した形での開催を目指します。

その他、食をテーマとした期間限定のグルメ祭りや、完成した指宿港海岸、新しい指宿の風物詩である夏のひまわりなど、市内各種団体と連携して新たな素材でイベントを通して地域振興に繋げられるよう取り組んで参ります。

（４）【交付金事業の取り組み】

国の新しい地方経済・生活環境創生事業交付金制度に係る持続可能な体験受入基盤強化事業の受諾。①受入体制基盤強化のための専門人材育成事業

②極上体験プログラムパンフレットの電子化と「いぶすきさんぽ」との連携

Ⅱ【収益事業会計】（事業比率 19, 16%）

１【財政の健全化に伴う事業運営のスリム化】

当観光協会の財源については公益事業を支えるための収益事業として、指宿駅構内や砂楽内の土産品販売「ふるさとショップ売店」や指宿駅構内案内所でのレンタル電動アシスト自転車、手荷物送り等の有料サービスによる収入確保に一層努めてまいります。

また、「極上体験プログラム」の電子チケット化に向けて検討し、販売促進を図り増収と、経費節減等にも努めると共に自主財源の確保を図る為、会員事業所の協力を得た通販事業等の構築をはかりながら財政の健全化を図ります。

協会の財政確保に向けて、会員の商品の販売システムの構築を更に検討いたします。

Ⅲ【その他事業会計】（事業比率 7, 30%）

1【公園管理業務（指宿市指定管理事業）】

「セントラルパーク指宿」の指宿市指定管理者として、観光客にはビジターセンターとして、地元市民には公園等でくつろぐ機能、温泉祭等のイベントによる会場活用を複合的に持った公園・管理棟としての運営になるよう進めてまいります。

Ⅳ【法人会計】（事業比率 15, 07%）

1【法人会計・組織】

協会役員（理事・監事・顧問）による理事会開催回数を隔離で実施して来ましたがイベントの状況等で随時の開催も必要なこともあり柔軟な開催のあり方を検討して参ります。専門委員会の活動強化と合同開催また、会員への情報発信、県・市等の関係団体との連携により円滑な事業運営を図ってまいります。

Ⅴ【その他】

指宿市観光ビジョンが策定され「稼げる町いぶすき」をめざし、指宿の魅力を発信するキャッチコピーとして「レトロピカル指宿」が発表されました。地域ブランド力を発信し、「砂楽」など指宿特有の資源を活かした温泉を多くの観光客に提供してまいります。

四季折々の花や散策コースなど最新の観光情報を提供するために、会員向けホームページや既存の観光ネットシステムを効率よく活用する体制に取り組みます。

また、指宿の顔である指宿駅について、窓口対応時間の縮小や駅長不在となっているが観光特急列車「指宿のたまて箱」号を軸に観光情報発信を図り、依然として人気が高く、今後もお出迎えの手振りを継続し、市民一体となったおもてなしの醸成に更に努めます。

これまでの昼間の周遊型観光から宿泊型観光に繋げるため、夜と早朝の観光スポット開発や他産業（農業・水産・加工業・畜産業）のご協力をいただくことで、街の活性化と発展に繋げていきたいと思っております。

指宿港海岸整備事業につきましては、地域住民とのワークショップを通して新たな観光地づくりを目指し行政や他団体との協議を進めてまいります。

以上について取り組んでまいりますので、ご理解ご協力を宜しくお願いいたします。